

まめってえ通信

第3号

平成22年6月15日

発行
NPO法人
まめってえ鬼無里
住所 長野市鬼無里
日影 4258-1
電話 050-3736-6218
FAX 020-4622-9939
毎月1回ぐらい発行
URL <http://www.kinasa.net>
mail mamettee@kinasa.net



大豆をたくさん植えました!!

夏のように暑かった6月12日。時折吹く山の涼しい風を感じながら『えごまくらぶ・だいずくらぶ』で大豆の植え付けを行いました。

6月9日の信濃毎日新聞に掲載された記事を読んで、長野市街地から参加してくださった方も含め、集まったのは15人の大人と4人の子供。大豆の苗は約6千本もあって、3箇所畑に全て植えることができませんでした。3箇所とも元々は田んぼだった畑だったりした所ですが、何年かお休みしていた農地で、私たちの手で遊休農地の再利用をすることができました。

中には、生まれて初めて「くわ」を持ったという方もいらっしゃいました。

えごまの苗は、成長が遅れてしまい、一緒に植え付けることができず、6月下旬か7月上旬の植え付けになります。準備ができた第1、くらぶ会員のみならずにはまた集まってもらいますよ。

今後は、夏に数回「草取り」をして、秋には待ちに待った収穫祭です。「どうやって食べる?」と今から盛り上がりつつあります。

クラブ会員はまだまだ募集中です! 参加費無料。楽しく美味しくそして健康に! 私たちと一緒に畑に出ませんか?!

7月のイベント案内 (他団体主催)

- 6月26日~7月11日 花しょうぶとホテルまつり
- 6月26日~7月11日 ※「白髯神社の本殿特別拝観と花しょうぶ・ホテル・古民家をめぐる旅」
- 7月11日 ※奥裾花自然環境学習会
<深緑のブナの森>
- 7月24日・25日 ※親子ふれあいキャンプ
(奥裾花キャンプ場)
- 7月25日 第4回^{きなさいち}鬼無里市開催
- 7月25日 ※調理講習会(乾燥野菜くなす・かぼちゃ)
※マークはそれぞれ申し込みが必要です。
- <いろは堂ギャラリー情報>
- 6月2日~6月21日 土屋晃・土屋久美子 陶芸
- 6月23日~7月12日 星野霽雨 墨画
- 7月14日~8月2日 本間友幸 陶芸

~どんなことをしていくの?~ その1「まめってえ鬼無里の考え方」

【創刊号】では“NPO法”に則り、私たちが「やりたい」「必要だ!」と思って選んだ8項目を紹介しました。

では、具体的に何がやりたいの?というところをこれから説明していこうと思います。

と、その前に、『まめってえ鬼無里』の考え方から説明することにします。

私たちが行うイベントなどは、すべて繋がっています。例えば、『きなさのごはん』1つ取っても、その中に「子育て中のお母さんを中心に食の安全を伝えたい」「鬼無里は良い所だよと伝えたい」「楽しく子育てして欲しい」「地域の人に住んでいても知らない事を伝えたい」「旬の野菜・地産地消の意味を考えて欲しい」などなど沢山のメッセージが込められています。

そんな沢山の伝えたいことに共通していえるのは「**鬼無里を元気に**」です。

何か1つにこだわるとしたら「鬼無里を元気に」にこだわります。そのためにできることは何にでも挑戦しようと思っています。一見私たちがやろうとしていることは、とても「欲張り」に見えるかもしれませんが、こだわりのためには食欲でありたいと思います。

今回はちゃんと8項目の一つ一つの説明をしますね♪

…最後にご報告!

法人格取得! NPO 法人になりました!!

今から三十年前、私がここで生きていこうと決めた頃の鬼無里、ここで子育てをしたいと思った頃の美しくふとこころ深きふるさとを次の世代に残したいと考えています。そんな思いから「まめってえ鬼無里」の活動に参加しました。思いを同じくする仲間が沢山集まり、とても心強く思います。

今後の「まめってえ鬼無里」の活動に、心躍らせている毎日です。

7月のスケジュール

「えごまくらぶ・だいずくらぶ」活動案内

- * 6月下旬か、7月上旬に“えごま”植え付けを行います。
- * 7月下旬、畑の草取りを行います。

日程が決まらずごめんなさい。“えごま”と“畑”と“お天気”に相談して連絡しますので、くらぶ会員の方は、連絡をお待ちください



信州鬼無里の元気を耕す

ふるさと鬼無里

理事 吉田 廣子

私が鬼無里に越してきて、三十年の時が流れました。その間に人口は減り空家が増え、里山は活気を失い荒れた田畑が目立つようになりました。地域の将来に不安を感じていた時に、ヴェルフェン・ヴェンゲ村の事を知りました。

鬼無里と同じような山間地でありながら、その特異性を生かした地域づくりをしている所があると知った時、私にもできる事があるのではと考えました。そこで、鬼無里版のソフトモビリティシステムを作ろうと思いいちました。

自然エネルギーを利用した、地域住民、とりわけ高齢者の足となるような交通システムの確立や、近隣の観光地と連携した、滞在型観光、グリーンツーリズムのプログラムの導入。循環型農業の振興等、環境に配慮した地域づくりを進めることによって、より住みよい鬼無里が見えてくるのではないのでしょうか。